② 麦・大豆・そば

（1）産出額

平成26年の産出額は麦類が5億円、豆類が4億円、雑穀が2億円となっています。

（2）品目別の生産状況

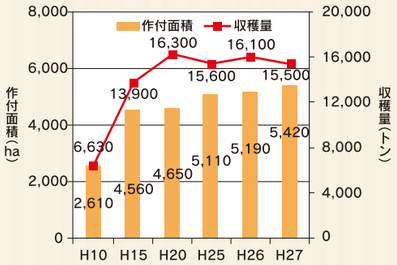
Ⅰ　大麦

平成27年産の作付面積は5,420ha、収穫量は15,500トンとなっています。

六条大麦では全国一の作付面積を誇ります。

主要品種　ファイバースノウ

【六条大麦の作付面積、収穫量の推移】



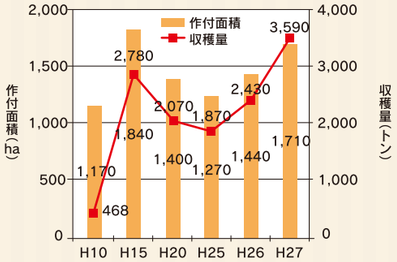
Ⅱ　大豆

平成27年の作付面積は1,710ha、収穫量は3,590トンとなっています。

新品種「里のほほえみ」の導入により、全国3位の単収となりました。

主要品種　里のほほえみ

【大豆の作付面積、収穫量の推移】



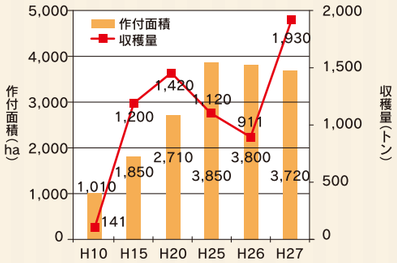
Ⅲ　そば

平成27年の作付面積は3,720ha（全国4位）、収穫量は1,930トンとなっています。

「越前おろしそば」で知られる、全国でも有名なそば産地です。

主要品種　大野在来、丸岡在来

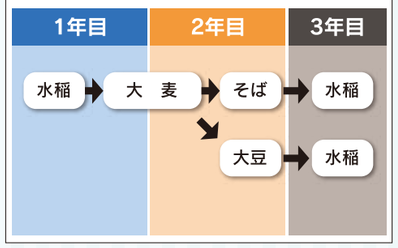
【そばの作付面積、収穫量の推移】



（3）今後の方針

県域で推進している2年3作体系（水稲＋大麦＋大豆・そば）の作付面積を平成30年を目標に、6,000haまで拡大します。

《2年3作体系》



PICK UP!

大豆の新品種「里のほほえみ」

平成21年度に県の奨励品種に指定され、平成26年に従来の「エンレイ」から全面切り替えを行いました。

「エンレイ」よりも大粒で収量が高く、豆腐は白くて甘みが強いのが特徴です。

左：「里のほほえみ」　右：「エンレイ」

③ 野菜

（1）産出額

平成26年の産出額は66億円で、農業産出額全体（400億円）の約17%を占めています。

（2）作付面積と収穫量

平成26年の主要野菜の作付面積は1,703 ha、収穫量は28,249トンとなっています。

【作付面積と収穫量】

主要品目	作付面積（ha）	収穫量（トン）	主な市町
ダイコン	267	6,450	あわら市、坂井市
スイカ	182	3,660	坂井市、あわら市、越前町
サトイモ	269	3,440	大野市、勝山市
ネギ	136	2,370	大野市、勝山市、小浜市、福井市
トマト（ミディトマト含む）	84	1,770	福井市、坂井市、小浜市、高浜町
ホウレンソウ	88	830	福井市
アールスメロン	25	446	あわら市、坂井市
その他	652	9,283	
合　計	1,703	28,249	

平成 26 年度　農林水産省野菜生産出荷統計より

（3）地域別の品目と栽培方法

◆坂井北部丘陵地（あわら市～坂井市）

約1,000haの広大な畑を利用し、露地ではキャベツ・ニンジン・スイカ、施設ではメロン・トマトなどが栽培されています。

◆三里浜砂丘地（坂井市～福井市）

水はけの良い砂地を利用し、露地ではラッキョウ・スイカ、施設ではコカブ・メロンなどが栽培されています。

◆若狭地区

温暖で降雪が少ないため、ミディトマト・大玉トマトなどの大規模な施設園芸が盛んです。

◆県内全域

水田での園芸が進んでおり、機械化が可能なネギ・キャベツ・タマネギ・ブロッコリー・エダマメなどが栽培されています。

（4）今後の方針

丘陵地・砂丘地では、新規就農者や企業の参入を促進し、施設園芸・加工業務用野菜の生産を拡大します。

若狭地区では、ＩＣＴを活用し、最適な生育条件で栽培が可能な大規模施設園芸産地を育成します。

県内の水田では、排水対策を徹底し、集落営農組織等による園芸生産を拡大します。

PICK UP!

福井百歳やさい

本県には、勝山水菜や谷田部ねぎ、河内赤かぶらなど、地域風土と先祖代々の努力によって100年以上前から受け継がれてきた伝統野菜が20種類以上あります。これらを「福井百歳やさい」と名付け、ブランド化と産地の拡大を進めています。

河内赤かぶら：焼畑の様子

④ 果樹

（1）産出額

平成26年の産出額は10億円で、農業産出額全体（400億円）の約3%を占めています。

（2）結果樹面積と収穫量

平成26年の結果樹面積は827ha、収穫量は3,855トンとなっています。

【結果樹面積と収穫量】

主要品目	結果樹面積（ha）	収穫量（トン）	主な市町
ウメ	497	1,860	若狭町、小浜市、南越前町
ナシ	67	1,110	坂井市、あわら市、若狭町
カキ	135	679	あわら市、南越前町
ブドウ	9	21	坂井市、福井市、鯖江市、美浜町
その他	119	185	
合 計	827	3,855	

平成26年産 農林水産省果樹生産出荷統計より（ブドウは生産振興課調べ）

◆ ウメ（福井梅）

江戸時代から栽培の歴史があり、中京、関西方面にも出荷されています。

主要品種 「紅サシ」「剣先」「新平太夫」「福太夫」

◆ ブドウ

平成23年から栽培を推進しており、「ふくぶる」という愛称で販売されています。

主要品種 「サニールージュ」「ブラックビート」「藤稔」「シャインマスカット」

（3）今後の方針

県内需要が多いブドウの栽培面積と生産量の拡大を進めます。

ウメの収益向上のため、多収性品種「新平太夫」、「福太夫」の導入を進めます。

⑤ 花き

（1）産出額

平成26年の産出額は7億円で、農業産出額全体（400億円）の約2%を占めています。

（2）栽培面積

平成25年の栽培面積は135ha、収穫量は14,388千本となっています。

【栽培面積と収穫量】

主要品目	栽培面積（ha）	収穫量（千本）	主な市町
スイセン	78	2,500	越前町、福井市、南越前町
キク	29	6,701	大野市、勝山市
花ハス	13	65	南越前町
その他	15	5,122	
合 計	135	14,388	

平成25年産 生産振興課調べより

◆ スイセン（越前水仙）

日本三大群生地の一つで、主に生花用や贈答用として関西を中心に販売されています。

◆ キク

奥越地域を中心に栽培され、昼夜の気温較差により色が鮮やかになることから、市場で高く評価されています。

（3）今後の方針

スイセンの安定生産に向けた球根養成組織の育成および施設栽培を進めます。

キクの収益向上のため、栽培の機械化や共同作業化を進めます。

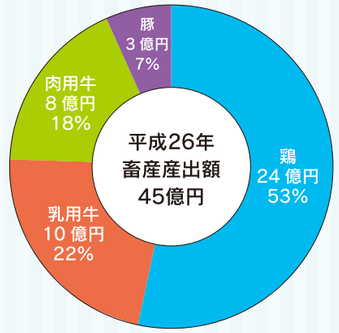
⑥ 畜産

（1）産出額

平成26年の産出額は45億円で、農業産出額全体（400億円）の約11%を占めています。

品目別では、鶏が24億円と最も多く、乳用牛が10億円、肉用牛が8億円、豚が3億円となっています。

【畜産産出額の内訳】

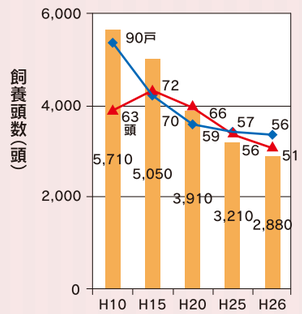


（2）飼養頭羽数と飼養戸数

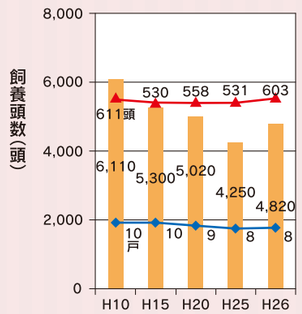
主要家畜（肉用牛、豚、採卵鶏、乳用牛）の飼養頭羽数・飼養戸数は、近年減少傾向ですが、一戸当たりの飼養頭羽数は、肉用牛を除いて増加傾向となっています。

飼養頭羽数　飼養戸数　一戸当たり飼養頭羽数

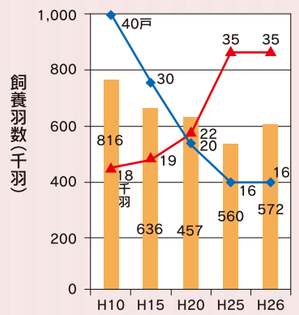
◆ 肉用牛



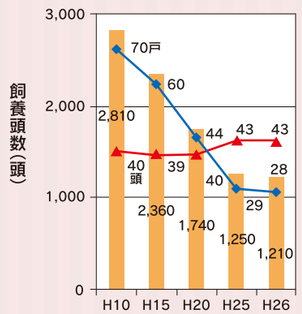
◆ 豚

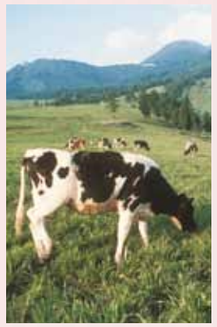


◆ 採卵鶏



◆ 乳用牛





（3）今後の方針

肉用牛では、交雑種から若狭牛生産への転換を進めます。

養豚では、黒豚の美味しさを持つ新ふくいポークを開発します。

養鶏では、卵肉兼用の商品価値の高い鶏「新地鶏」を開発します。

乳用牛では、１頭あたりの生産能力を高めるとともに、飼料用米の活用によって生産費の削減を行います。

PICK UP!

三ツ星若狭牛の販売

「お肉の美味しさを極めたい」そんな思いから、平成26年7月に本県の銘柄牛（若狭牛）の中から特に香り豊かで口どけの良いものを、「三ツ星若狭牛」として販売を開始しました。

通常の若狭牛の基準であるお肉のきめの細かさや風味に加え、オレイン酸と呼ばれる成分が55%以上あるものを「三ツ星若狭牛」と認証しています。

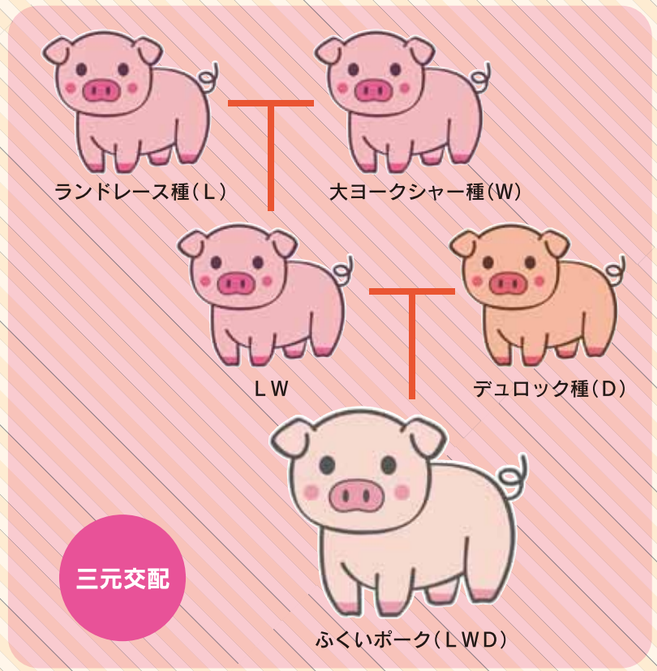
このオレイン酸はオリーブオイルや菜種油などの食物油に多く含まれ、不飽和脂肪酸と呼ばれるいわゆる体に良い脂成分のひとつです。脂っこさがなくさらっとした脂のため、お肉のうまみ成分と合わさって味のマリアージュが生まれるといわれています。

ぜひ、お召し上がりください。

ふくいポーク（三元交配豚）

ふくいポークは本県の銘柄豚です。豚の品種として代表的なランドレース種に、大ヨークシャー種、デュロック種を組合わせることにより（三元交配）生産されています。

肉質は締まりが良く、風味が良いのが特長です。

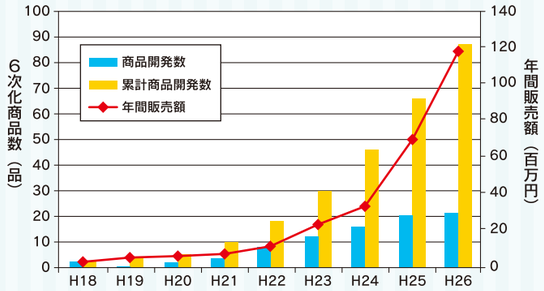


⑦ ６次産業化の推進

農林水産業の6次産業化を推進するため、農林漁業者等が行う商品開発から販売までを一貫して支援しています。

※6次産業化とは・・・
農林漁業者（1次産業）が生産だけでなく、自ら生産物の加工（2次産業）、流通・販売（3次産業）に一体的に取り組み、経営の多角化を図ることで所得の向上につなげていこうという考え方です。

【6次化商品数と年間販売額】



（1）商品開発

平成26年に新たに開発した商品数は21品となり、県の支援が始まった平成18年からの累計は87品となっています。

また、年間販売額についても、平成26年で約1.2億円となり、年々増加傾向にあります。

商品開発例

大豆・玄米を使ったベジミート　甘くない梅酒　梅・里芋を利用したスイーツ　「木田ちそ」のサイダー

（2）推進体制

○商品開発への支援

福井県食品加工研究所内に６次産業化に関するサポートセンターを設置し、商品企画へのアドバイスや加工技術の研修会などを行っています。

また、県外販売向け商品の開発を行うため、都市圏のバイヤーや生産者団体、商工団体、金融機関、行政など多様な関係者による「６次産業化推進会議」を形成し、それぞれの専門力を活かして農林漁業者等による商品開発の初期段階から販売まで、一貫した支援を行っています。

○設備・機器導入への支援

農産加工施設等の整備に対して支援を行っています。

○販売への支援

マッチング商談会の開催や都市圏での販売促進活動等に対して支援を行っています。

サポートセンターによるアドバイス

食の國ふくいマッチング商談会

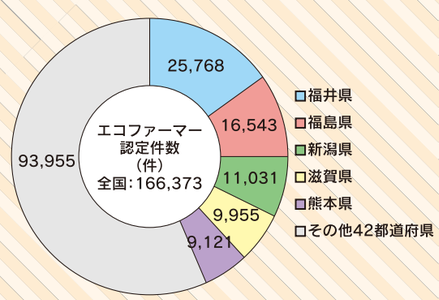
PICK UP!

エコ農業の推進

本県では、ホタルなどの生き物が生息しやすい、環境にやさしい農業を推進しています。

特に、土づくりと化学肥料・化学合成農薬の低減を一体的に行う「エコファーマー」認定を福井米生産者の約97%が取得し、認定件数は全国１位となっています。

また、農薬や化学肥料を慣行栽培から５割以上低減した農産物を「福井県特別栽培農産物」として認証し、平成27年には2,000haを超える面積で特別栽培が取り組まれています。



エコファーマーの認定状況
（平成27年3月末）

エコファーマーマーク

特別栽培農産物認証マーク

小規模農業者のチャレンジ応援

農村地域を支えるJAと県が共動し、農業者の自由な発想によるプロジェクト活動を応援しています。

○農業女性イノベーター応援事業
直売所へのイートイン機能の追加や農産物を使った新商品の開発を支援します。

○新作型・新技術トライアル事業
地域で栽培されていない新しい作物や新たな農業技術の導入を支援します。

○作業機械等改良応援事業
農業者のアイデアを基に、使いやすく生産性の高い農機具類への改良を支援します。

PICK UP!

食育・地産地消の推進

本県は、日本で初めて食育の大切さを説いた「石塚左玄」や天皇の料理番として活躍した「秋山徳蔵」のふるさとです。

先人の考え方を受け継ぎ、県民誰もが「おいしく・楽しく・うれしい健康的な生活」を送ることを目指します。

石塚　左玄（食育の祖）

秋山　徳蔵（天皇の料理番）

○ふくいの食育リーダーの育成と活躍の場の提供
食育の基本を伝え、選食力のある県民を育成するため、地域の食育活動を担うリーダーを育成します。
食育リーダーには、地域の講習会や小中学校での授業等の講師として活躍していただきます。

ふくいの食育リーダーの育成

○地場産食材による和食給食の普及
11月24日（和食の日）に、全国で唯一、県内の全小中学校で「地場産100%和食給食」を提供するなど、地産地消と和食文化の普及を推進しています。

「地場産100%和食給食」の実施

○地場産食材の使用拡大
旬の野菜をたっぷり使った「ふく囲鍋」や「越のルビーもう１個運動」、「ふくい朝ごはん運動」などにより、地場産食材の使用を拡大します。

越のルビーを使った鍋

福井ゆかりの店の登録（地産外消）

都市圏における県産農林水産物の取引量の増加と知名度向上のため、福井にゆかりのある都市圏の飲食店を「福井ゆかりの店」に登録します。

登録店には、福井での産地視察やガイドマップでの紹介など多くの特典があります。

また、登録店の協力を得て、グリーンツーリズムや農林水産カレッジの受講生募集など福井の情報を発信します。

福井ゆかりの店

県産食材を使った料理